

移動美術館 ～逆どこでもドア～

慶應義塾大学大学院

システムデザイン・マネジメント研究科
デザインプロジェクト アートびっくり戦隊

逆どこでもドア

行きたいところへ行くんじゃない。
行きたいところが近くにきてくれる！



tv asahiのHPより

~~どこでもドア~~

~~どこでもドア~~

~~このドアを開けるだけで、行きたいところへ、どこへでも行くことができる。~~

THREE STEPS



STEP 1

自宅のPCでオンライン美術館を楽しむ



STEP 1

画像データを使ってリマスターアート



諸人自撮り



参加者



チャット

もっと面白いやつ作ろうぜ!

いいね!

自由に書こう
^ ^ *

・高精細デジタル画像をつかって自分の作品をPC上で作れる（仲間と作るのもできる）

・作った作品は希望者には一定期間美術館のサイトに掲載できる

STEP 2

近所の施設で移動美術館を楽しむ



- ・ 名画の高精細デジタル画像を使ったARのパッケージ（画像、音楽、マニュアル）を作って貸し出す
- ・ モニターや音響施設が整っている学校や地域の施設が、ARを体験できる「移動美術館」に変身
- ・ 自分の行動範囲内に美術館がきてくれる
- ・ ARにすることで、絵画の細部まで拡大されてみることができ、新たな発見やゲーム感覚で絵画を楽しく鑑
- ・ 身近な場所を描かれた名画や作家を選ぶことで、地元のことを知るきっかけにもなる（地域学習にもなる）

STEP 2'

自宅で移動美術館を楽しむ①



- ・ 名画の高精細デジタル画像を使ったARのパッケージ（画像、音楽、マニュアル）を作って貸し出す
- ・ 自宅がARを体験できる「移動美術館」に変身
- ・ イメージは家庭用プラネタリウムの美術館版

STEP 2'

自宅で移動美術館を楽しむ②

デジタル壁紙



デジタル壁紙とは

服のように気分に合わせていつでも、スマホなどから画像データを送ると壁紙を思い通りに変えられる壁紙

STEP 2'

自宅で移動美術館を楽しむ②

デジタル壁紙

(設置方法)

部屋の壁紙に極薄のデジタルサイネージを取り付けるイメージ。取り外しが可能なので平らな壁ならどこでも取り付けられる。

(データ入力方法)

- ① 自分のスマホの中にある画像
- ② 絵画や風景画のサブスクリプションサービスを契約

(楽しみ方)

- ① その日の気分に応じて、リアルタイムで違う絵画を楽しめる。
- ② 部屋のすべての壁紙をデジタル壁紙にすると、どこでも行きたい場所の風景を家に居ながら楽しめる。
(どこでもドアを使った気持ちになれる。)
- ③ コロナ化で外出できない人が外に出た気分になるのでリフレッシュできる。
- ④ サブスクで、壁紙の画像データと同時にアロマが送られてきて視覚と嗅覚が同時に刺激されてよりリラックスできる。

(今後の可能性)

- ① DIYで壁を塗り替える時代から、より手軽に変化を楽しめる時代になる。
- ② 身体が不自由な人や介護が必要で外出できない人でも外出した気持ちになるので、病院等でも利用できる。
(認知症の人が家族と一緒に写っている写真を投影すると症状が改善する可能性の検証などに役立つ)

STEP 3

本物の美術館を楽しむ

- * これまでのSTEP 1、STEP2、STEP2'では、絵画作品の所蔵場所やアクセスなどを一緒に周知します。
- * オンライン化が進んでも、リアルな移動は残ると予想。
- * そこで、身近に美術館を持ってくることで「将来本物を観に行きたい！」という気持ちを醸成する。
- * 観に行きたくなかった時に、すぐに行動に移せるように「本物に出会うための情報」をセットで提供する。

アンケート結果

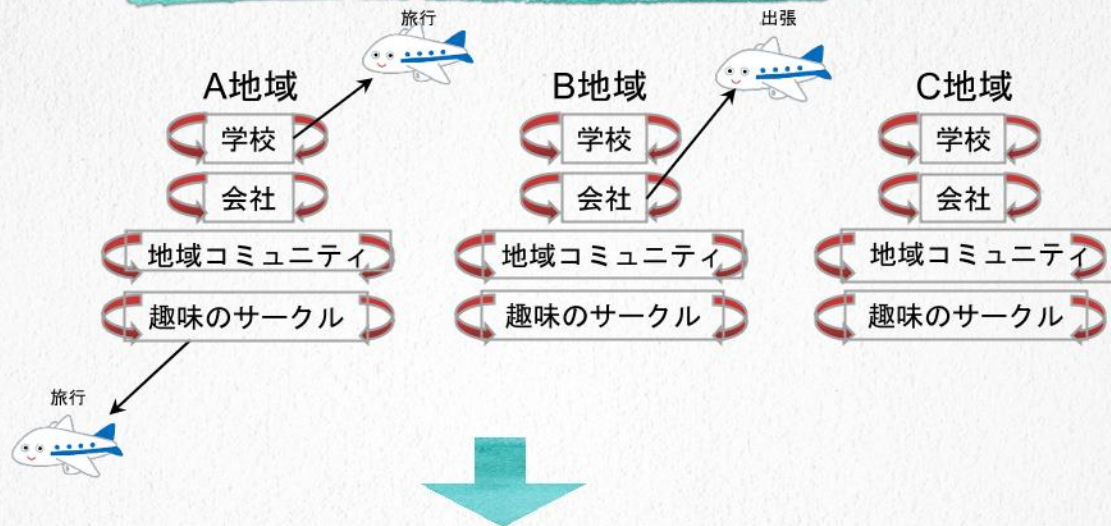
オンライン時代にもリアルな移動が残るかどうかのアンケート



回答者の100%がオンライン時代にもリアルな移動が残ると回答！

リアルをベースとした社会関係資本

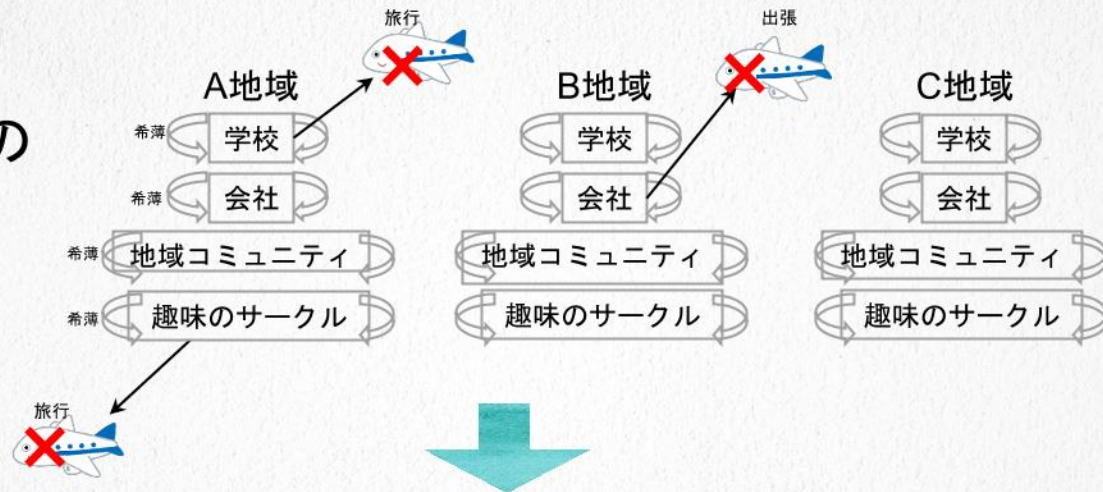
今までの
リアル関係
モデル



これまでの社会関係資本は、地理的に近く、同組織内で構築することを前提としてきた
そして組織単位、またはリアルで築いてきた仲間や同僚同士で移動するのが普通だった

このままオンライン化が進んだ場合の
コミュニティと移動

オンライン時代の
バーチャル関係
モデル

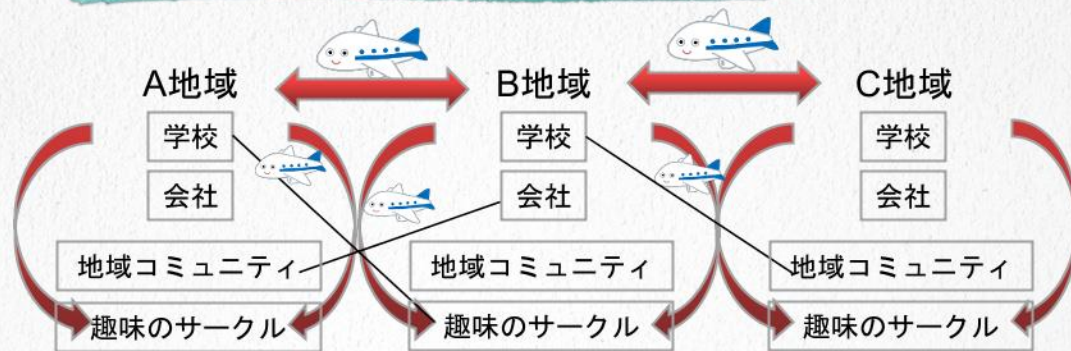


オンライン時代は出張などの義務的移動が激減することに加えて、

希薄化する同組織内での社会関係資本力の低下から
「一緒に旅行しよう」といったコミュニティ内の移動欲求も生まれなくなってくる

＝移動機会が著しく減る

私たちのソリューションが
普及した時代のコミュニティと移動



これからは、

場所に関係なく、組織をまたいで構築することが当たり前になる

そして場所やコミュニティ間を超えた交流が
新たな移動需要を創出する

移動美術館が
実現した場合の
バーチャル関係
モデル